

慶應大の林出といいます

設置センサで患者の見守りアシスト。通知の方法についてアンケートに答えていただきたく

【録音確認】

被験者名：服側

職種：CW

年数：15（資格）

音声か動画が流れるので、それを聞いたら次に何するかを教えて

例1

- 次の行動しないで事故ったらまずい。看護しかできないこともあるから
 - 条件1：見に行く
 - 条件2：近く・本人のところまで行く
 - 条件3：行く（姿勢が崩れてたら見に行く）
- 並び替え：2-3-1（あつ動画たらいいけど対応しないで事故ったらまずいので、頼りすぎるもよくないかな）

例2

- 次の行動
 - 条件1：ちらっと見て本人の姿勢を確認するくらい
 - 条件2：近くまで行く（転倒リスクがたかいつていう情報は遠くからは見えないので）
 - 条件3：リスクが低ければ寝ているか判別してから近くに行く
- 並び替え：2-3-1

例3

- 次の行動
 - 条件1：患者さんによっては行く（自立しているかどうか）
 - 自立してたら、遠くから見る
 - してなかったら近くまで行く
 - 条件2：すぐ行く
 - 条件3：ちらっと見る。してなければすぐ行く
- 並び替え：3-2-1（患者による。どんおくらい立とうとしてるか）

例4

- 次の行動
 - 条件1：声掛けには行く
 - 条件2：近くまで行く
 - 条件3：近くまでは行く。画像があると本人の印象が強くなって
- 並び替え：3-2-1

動画：5分くらいの動画。要る・いらないを教えて

- 通知1：スタッフが見ていないAさんが、姿勢を崩しています（17s）
 - 必要
 - 理由：自立してなかったらもつと声はかけに行く
- 通知2：スタッフが見ていないFさんが、立ち上がっています（155s）
 - 不要

- 理由：自立してたら不要。自立してなかったら必要
- 通知3：スタッフが見ていないAさんが、姿勢を崩しています (260s)
 - 必要
 - 理由：
- 通知4：スタッフが見ていないDさんが、姿勢を崩しています (16s)
 - 必要
 - 理由：念の為はほしい。駆けつけるかどうかは別の話
- 通知5：スタッフが見ていないIさんが、姿勢を崩しています (162s)
 - 必要・
 - 理由：
- 通知6：スタッフが見ていないDさんが、姿勢を崩しています (10s)
 - 必要
 - 理由：念の為

聞きたかったこと：

- 情報が豊かなことへの感想
 - 「要不要は自分で判断するから、ひとまず個人識別と状況を教えてほしい」という考えを引き出したい
- 「必要かどうかの判断は、システムに交代してほしい？それとも全部教えてほしい？」

必要かどうかの判断は看護師に任せるのが一番。

そのための判断材料の提供がシステムの役割だから、それをどう「うざったくならないように」伝えるか、が難しいところなのかもしれない。

今までの手法に比べて、「周りにあるもの」「見守りの状況」など多くの情報を取得できるのが手法の強みなので、それをどう伝えるかが課題。（内容＋頻度）